

研究
主題

自己を見つめ、多様な考えに触れながら道徳的価値について考える授業を目指して
—多面的・多角的に考えさせる発問の工夫を通して—

第2学年道徳科学習指導案

指導月日 令和2年10月6日
所属校名 女川町立女川中学校
氏名 及川 育美

1 主題名 よりよい社会のために 「C-(10) 遵法精神, 公德心」

教材名 「宝塚方面行き一西宮北口駅」 (東京書籍 新しい道徳2)

2 主題の目標

きまりの意義を理解し、公德心を持って自ら守ろうとする気持ちとともに、互いに守ることで規律ある安定した社会をつくろうとする道徳的判断力を育てる。

3 主題観

本主題は、中学校学習指導要領(平成29年告示) 特別の教科 道徳の内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること」[C-(10) 遵法精神, 公德心]の「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」にあたる。私たちは多くの人間が集まる社会の中で生活をしており、時に利益がぶつかり合い集団のまとまりがなくなることがある。その際に、秩序や規律を与え、守ることで自分たちの生活が安定して過ごすことができていることを理解することが大切である。また、遵法精神は、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にすることである公德心によって支えられている。日常の生活で一人一人が法やきまりに関心を持ち、実践することによって、さらに住みよい社会につながる。

この内容項目の学習を通して、法やきまりについて自ら守り、守ることで自他にとって安定した社会の実現につながるという自律的な捉え方を理解させたい。そして、みんなが安心して生活できる社会をつくるために公德心を持って法やきまりを守ることを大切にする意識を高め、社会生活上のマナーにも意識を向け、それらを尊重しようとする気持ちを養っていきたいと考える。また、自他の権利を尊重し、自らに課せられた義務を果たすことについて、法やきまりと言った拘束力を持ったものだけで捉えさせるのではなく、公德心を持ち理性的な人間としての生き方を養っていくことが必要である。

4 生徒の実態 (第2学年1組 男18名 女17名 計35名)

本学級の生徒は、きまりを守ろうとする規範意識が高い生徒が多く、何事に対しても自ら考え行動し思いやりを持って接することができる。しかし、きまりを意識している生徒が多いにも関わらず、時にきまりを守れていない級友に対して、自ら注意を促すことができない生徒もいるという課題も挙げられる。事前のアンケートでは「きまりは守るべきだと思う」「きまりを守ることはできているか」という質問に対してほぼ全員の生徒が守ろうとする意識でおり、規範意識の高さがうかがえた。しかし、一方で「なぜきまりは守るべきだと思うか」の理由を見てみると「きまりだから守ったほうがいい」「守るものだから」などと回答した生徒が学級の半分いた。つまり、普段の生活で規範意識は高いものの、法やきまりについての意義を十分に理解していないということが分かった。

本時の授業においては、法やきまりの意義を他律的ではなく自律的に理解させ、守ることによって自他の生活や権利を守り、遵守することの大切さについて自覚させたい。また、公德心を持って生活

することでよりよい社会生活につながることに理解を深め、一人一人が日常の生活において公德心が大切であると意識させたいと考える。

5 指導観

本授業においては、きまりの意義を理解し、公德心を持って自ら守ろうとする気持ちとともに、互いに守ることで規律ある安定した社会をつくらうとする道徳的判断力を育てたい。自分たちのやりたいことばかりを優先して考えていると狭まった見方になり、結果として周りに迷惑を掛けている行為につながることもある。これは学校という小さな集団の中でさえも起こり得ることであり、今後生徒が社会に出た際には、これまで以上に周りを意識していくことが求められる。指導に当たっては、登場人物であるミサの行為を中心に、それに対して叱責するおじいさんと周りの乗客の受け止め方に触れ、公共の場での在り方を通して道徳的価値について考えさせていく。展開の前段において、生徒自身に問題点を見付けさせる発問を行い、課題意識を高め道徳的価値について考えさせる。また、「きまり」と「マナー」について、きまりを守ろうとする前提には公德心が関わっており、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にすることによって、きまりを守ろうという気持ちが支えられていることを理解させたい。マナーとは目に見えないもので、相手への思いやりの心と捉える。電車内での行動からその場にいる登場人物各々のマナーに対する捉え方を多面的・多角的に考えさせることで、表面に見えるものだけではなく、相手の心情を想像できる思いやりの心が関わってくることに気付かせたい。その際に、表面上の答えに偏った場合には「ミサは頼まれてやっているのだから悪くないのではないか」「どちらも迷惑な行為だと考えていますが、周りの乗客はどう感じているのだろうか」という問い返しを行い、生徒の考えを揺さぶり、もう一度考えさせることで道徳的価値についてより考えを深められるようにしたい。展開の後段では、きまりは自分たちの行動を制限するものだと捉えるのではなく、自分たちの生活を守るものでもあり、自分たちが生活する社会をよりよく安心に安定したものになっているものだと理解させる。これにより、今後の生活で意識的に行動を判断していくことで自分の生活に生かしていけることだと気付かせたい。

6 研究主題との関連

(1) 多様な立場や条件について考えさせる発問の工夫

教材中の登場人物の行為や理由を捉えさせ、さまざまな立場や条件から考えさせる発問によって、多面的・多角的な見方や考え方をさせていく。教材中の一場面において、表面的にしか見えない部分を捉えさせるのではなく、周囲の状況や人物の心情を意識させることによって、実は見えていなかった見方や考え方に触れさせることにつながる。そうした展開から今後の実生活の場面において、学習した内容を生かせるように自分のこととして捉えさせていくことが大切である。また、展開後段の価値について問う発問では、十分な時間を確保しながら道徳的価値を深められるようにしていく。

(2) 生徒主体の活動を取り入れ、多くの考えを交流させる展開の工夫

これまでの授業を通して、自分の考えを持って取り組む生徒が多く見られるようになった。そこで生徒一人一人の考えをより効果的に授業に結び付けていくために、生徒同士で話し合う時間を十分に取り入れることで、議論する道徳の授業が展開できるのではないかと考えた。本時の授業においては、付箋を活用して自分の考えを書かせた後、グループで各々の考えを発表し合いながら交流を通して考えを出し合い、多面的・多角的に考えさせていきたい。そして、生徒同士でのやり取りの時間を教師が意識して確保し授業を展開していく。

7 本時の計画

(1) 目標

電車内でのマナーについてのやり取りを通して、公德心を持ってきまりやそれを守ることの意義を理解し、互いにマナーを守ることでよりよい社会をつくらうとする道徳的判断力を育てる。

(2) 本時の指導に当たって

導入では、実生活に視点を向けさせ問題意識を持たせる。ここでは学校生活における「きまり」について触れ、生徒一人一人が普段からどのようなことをきまりだと実感しているのか確認する。そして、きまりが守られていない場合に、各々がどのような気持ちでいるのか思いを引き出す。生徒からは「迷惑だ」「嫌な気持ちになる」などマイナスの意見が出ると予想されるため、そこからきまりを守ることはどういうことなのかを考えるきっかけとしていきたい。

展開前段では「この内容の中で、何が問題となっていると思いますか」「ミサとおじいさんの行為についてあなたは どう思いますか。それぞれの行為に対するあなたの思いを理由も一緒に書いてみましょう」という発問を行い、一人一人が問題点を見つけることで、自分のこととして課題を捉え、意欲的に学習に取り組めるようにしたい。そして、教材中の登場人物の言動を立場や条件の違いを明らかにした上で原因は何なのか、人物の心情はどのように変化したのかなど多面的・多角的に捉え、考えさせることによって価値理解や人間理解を深めさせたいと考える。また、それぞれの立場や条件を考える際に、本時では付箋を活用して生徒たちの考えを活発に交流させ、他者理解を図り道徳的価値について考えを深めさせていく。展開後段では「今回の自分たちの行為に対して二人が気付いたことはどのようなことでしょうか」「よりよい社会をつくるためにどのようなことが必要だと考えますか」という、ねらいとする価値に迫る抽象的な発問を行い、生徒たちの考えを深めるために十分な時間を確保して道徳的価値について考えを深める時間にしたい。そして、終末で自己の生き方について考えをもたせることで道徳的判断力の育成につなげたい。

(3) 指導過程(別ページ参照)

(4) 本時の評価

きまりの意義を理解し、公德心を持って自ら守ることが社会の安定につながることにについて、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生活に生かそうとしていたか。(ワークシート・発言)

(5) 教材名 「宝塚方面行一西宮北口駅」 (東京書籍 新しい道徳2)

(6) 教材分析・発問構成(別ページ参照)

混雑している出発前の電車の中で、友人のマユミの分の座席を鞆で取っておき、一人座って待っているミサがいた。すると、突然近くにいたおじいさんに「何をやってんねん。あんたは」と詰られる。最初は誰に言っているのか分からなかったミサだが「座席に鞆座らせとるあんたや」と言われやっとな気が付いた。言われた瞬間に、反射的に反感を抱いたものの、おじいさんの自分を見据える怒りの眼差しに潰えてしまった。周囲には大勢の乗客がおり、うるさいおじいさんに向けられると思っていた非難の眼差しは全てミサに向けられ、おじいさんと同じく周囲もいら立ちを抱いていたことにも気付く。「これは友人の鞆で、友人が後から来るんです」「友達が、掃除当番で疲れて帰ってくるから」と言い訳せずにはいられず言うてしまうが、おじいさんからは「あんたが座替わったたらええやろが！言い訳すな！」と喝破されてしまった。その後、待ち合わせていたマユミが電車に乗ってくるが、マユミも戸惑いながらもその場の状況を理解した。その後、ミサとマユミは言い捨てるような口調で謝り、逃げるように電車を降りて、ホームのベンチに腰掛けた。ミサが取ってあった席は、電車が走り出しても誰も座っておらず「自分が座りたかったから難癖つけてただけやで、絶対」とマユミが口にするが、実はそうではないことを二人とも分かっていたという作品である。

電車内でのやり取りから、公共のマナーについてさまざまな立場の見方や考え方に触れ、今後の社会生活における権利や義務について気が付くことができる教材である。また、今後の生活において正しい判断を行うことでよりよい社会につながることを考えさせるのに適していると考えられる。

(7) 準備物

教師：ワークシート、掲示物(挿絵)、付箋紙、ホワイトボード

生徒：教科書

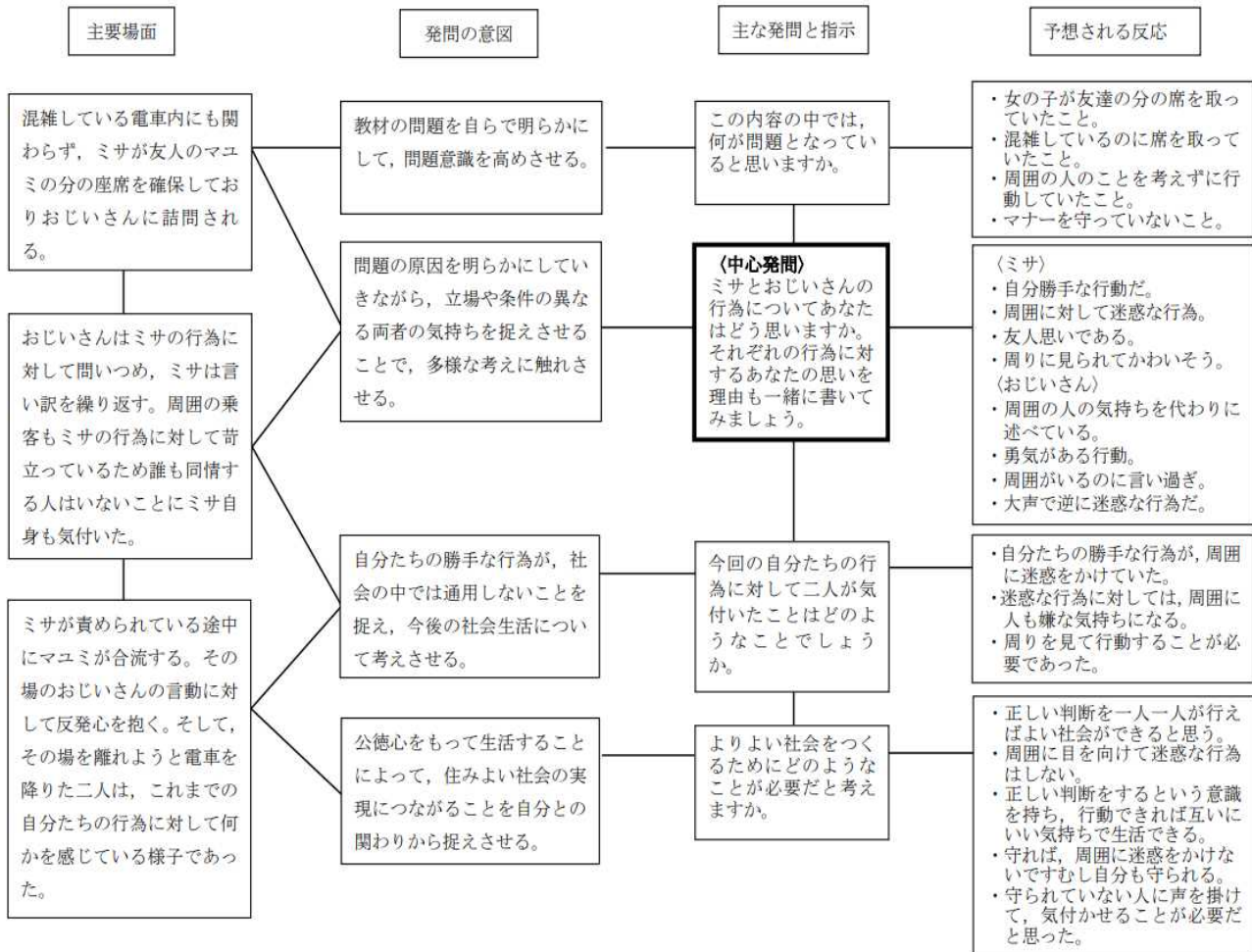
(8) 板書計画(別ページ参照)

(3) 指導過程

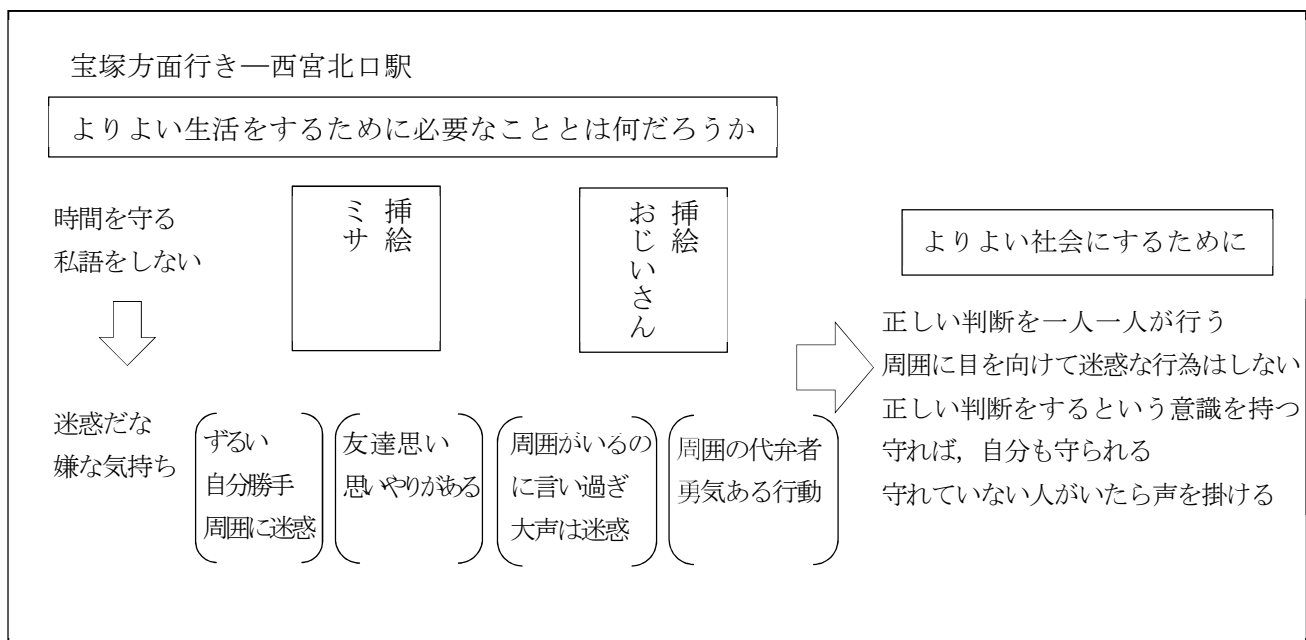
段階	学習活動	形態	○主な発問(◎中心発問) ●補助発問・生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。	一斉	○ 学校生活の中できまりとはどのようなものがありますか。 ・時間を守って行動する。 ・授業中は私語をしない。 ● 守られていない場面に出くわした時にあなたはどうか感じますか。 ・迷惑だなと感じる。 ・嫌な気持ちになる。	本時のねらいについて問題意識を持たせるために、実生活の経験を想起させ、各自の感じた問題意識を基に、主題につなげていく。
	2 課題をつかむ。			
テーマ：よりよい生活をするために必要なこととは何だろうか				
展開 35分 (前段 25分)	3 範読を聞き、公共のマナーについて捉える。	一斉		電車内でのミサとおじいさんのやり取りを中心に公共のマナーについて意識して範読を聞くよう視点を与える。
	4 教材の問題点を自ら明らかにし、学級全体で課題を捉える。	個人	○ この内容の中で、何が問題となっていると思いますか。 ・女の子が友達の分の席を取っていたこと。 ・混雑しているのに席を取っていたこと。 ・周囲の人のことを考えずに行動していたこと。 ・マナーを守っていないこと。 ● 座席を取ってはいけないという電車の「きまり」はあるのですか。 ・「きまり」はないと思う。 ・「きまり」ではなく「マナー」だと思う。	教材中の行為に対して自分たちで問題点を見付け、問題意識を高めながら道徳的価値について考えさせる。 みんなが守る「きまり」という縛られたものではないが、人として守るべき「公共のマナー」が存在することに視点を向けさせる。
	5 問題の原因を明らかにしながら、立場や状況から異なる両者の気持ちを捉え多様な考えに触れる。	個人	◎ ミサとおじいさんの行為についてあなたはどのように思いますか。それぞれの行為に対するあなたの思いを理由も一緒に書いてみましょう。 (付箋に記入) 〈ミサ〉 ・自分勝手な行動だ。 ・周囲に対して迷惑な行為。 ・友人思いである。 ・周りで見られてかわいそう。 〈おじいさん〉 ・周囲の人の気持ちを代わりに述べている。 ・勇気がある行動。 ・周囲がいるのに言い過ぎ。 ・大声で逆に迷惑な行為だ。	立場や条件が異なる電車内での人物の行動やそれに至った心情を理解させることによって多面的・多角的に考え、公共のマナーについて捉えさせる。 両者の行為に対する自分の考えを、理由を含め付箋に記入させる。
	6 多様な捉え方があることを理解しながら、より価値について深	グループ	○ 書いた内容をグループで一人一人理由を含め発表し、出てきた考えが同じような内容はグループ分けをしてみまし	付箋に自分たちの考えを発表しながらまとめ、交流させる。また、交流する際に同じ考えをまとめ、自分たちの

	める。		よう。	考えを整理させる。
	7 学級全体で共有し考えを深める。	一斉	○ 各グループで話し合った内容を見比べて、ミサとおじいさんの行為に対してどのようなことが考えられるでしょうか。 〈ミサ〉 ・席を取るのはずるいと思う。 ・自分勝手な行動で迷惑だ。 ・友達のためにやっているのだからやさしい面もある。 〈おじいさん〉 ・周囲の乗客が言えないことを代わりに言っている。 ・勇気ある行動だ。 ・大声で怒鳴るのは迷惑だ。	考えをまとめた各グループの用紙をホワイトボードに貼り学級全体で考えを共有する。その際に、生徒たち自らが考えて気付いたことを取り上げたいので、生徒に見比べて気付いたことは何かを問い掛けていく。 考え方に偏りが見られた際には問い返しを行う。否定的な発問や比較、仮定した発問を行い違う視点から考えさせ、多面的・多角的に捉えさらに道徳的価値についての考えを深めさせる。
	8 公共のマナーを守ることの必要性について捉える。	個人	○ 今回の自分たちの行為に対して二人が気付いたことはどのようなことでしょうか。 ・自分たちの勝手な行為が、周囲に迷惑を掛けていた。 ・迷惑な行為に対しては、周囲の人も嫌な気持ちになる。 ・周りを見て行動することが必要であった。 ● つまり二人の行為は正しかったのでしょうか。正しくなかったのでしょうか。 ● この二人はどうすればよかったのだろうか。	公共のマナーを守れなかったことを通して、自分たちの勝手な行為が周囲から非難され嫌な思いをさせてしまうことに気付かせる。また、自分たちの生活する中での規範意識と社会の中での規範意識の違いを理解させる。 問題解決に向けた生徒の考えを引き出す。
(後段 10分)	9 公共のマナーを守ることでよりよい社会の実現につながることについて捉える。	個人	○ よりよい社会をつくるためにどのようなことが必要だと考えますか。 ・正しい判断を一人一人が行えばよい社会ができると思う。 ・周囲に目を向けて迷惑な行為はしない。 ・正しい判断をするという意識を持ち、行動できれば互いにいい気持ちで生活できる。 ・守れば、周囲に迷惑を掛けないですむし自分も守られる。 ・守られていない人に声を掛けて、気付かせることが必要だと思った。	(評価) きまりの意義を理解し、公德心を持ち自ら守ることで社会が安定することについて、自分との関わりの中で考える学習を通して、これからの生活に生かそうとしていたか。 (ワークシート・発言)
終末 10分	10 自己の生き方について考える。	個人	○ 本時を振り返り、考えたことや感じたこと、これからの生活についてワークシートに書きましょう。	授業の始めと終わりの変容をワークシートに記入させる。
	11 教師の説話を聞く。	一斉		今後の生活において、守るべき正しい判断を行い、みんなが過ごしやすい生活につながることを確認する。

(6) 教材分析・発問構成



(8) 板書計画



※グループで考えをまとめた用紙はホワイトボードに貼る。